

マタイの福音書 第6章 26節a

「空の鳥を見なさい。」

山の上でイエスが語られた一文である。見渡せば木立があり、草花が、緑が大地を覆っていたかもしれません。遥か遠くには高くそびえる山が、眼下には満々と水をたたえる湖が、その上を飛び交うカモメが見えたかもしれません。それなのに、「空の鳥を見なさい」と身近で、ささやかなしるしを見るように勧める。山上に来た群衆は疲れ切っていたかもしれません。あたり一面を見渡せるほどの体力も、気力も残っていなかったかもしれません。ようやくのおもいで、山上に辿り着いたかも知れません。だから、鳥を見て、とイエスはおっしゃられる。

たとえ小さな鳥たちからさえ、見る者には思いもよらない世界が見え始めるから。鳥たちを見る者は、イエスのみことばに聞く者だから。鳥を見ながら、やがてみことばが描く世界で、鳥を見る者たちを包み始める。イエスがもたらした世界を見る者にしてくださる。疲れ切っていた者たちに新しい力が溢れ出てくる。

ささやかな、身近な出来事が壮大なご計画を映しだしている。軒先の桶に溜まった水面に、小さな枯れ葉が浮かんでいる。くすんだ黄色と茶色の装いで水面を漂う。秋の知らせが、軒先の小さな世界に届いている。時に身を任せるものを通し、万物の支配者がそこに現れる。